

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2026年4月16日

予報期間：4月18日～5月17日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

北日本と沖縄・奄美では期間のはじめ、東・西日本では期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

北日本太平洋側と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

# 全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	30:40:30	30:30:40	
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
東日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	10:20:70	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:40:50	40:40:20	20:30:50	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	20:40:40	20:40:40
東日本	10:10:80	10:20:70	20:30:50
西日本	10:10:80	10:10:80	20:30:50
沖縄・奄美	10:40:50	10:40:50	20:40:40

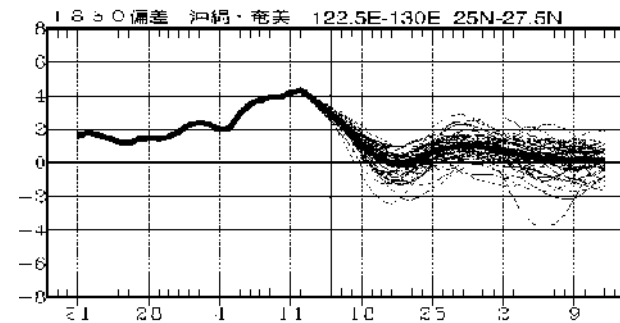
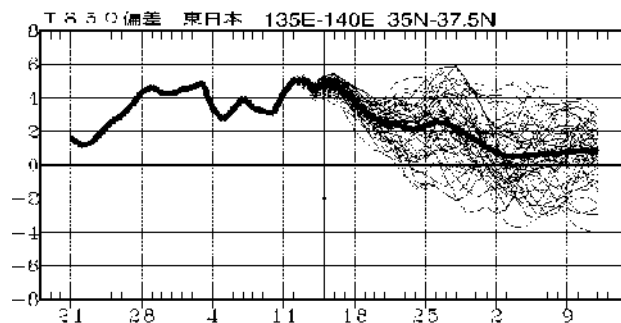
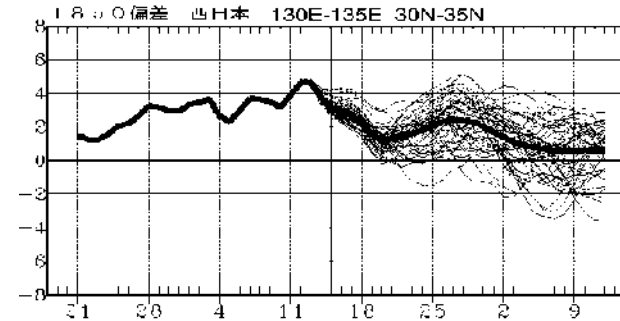
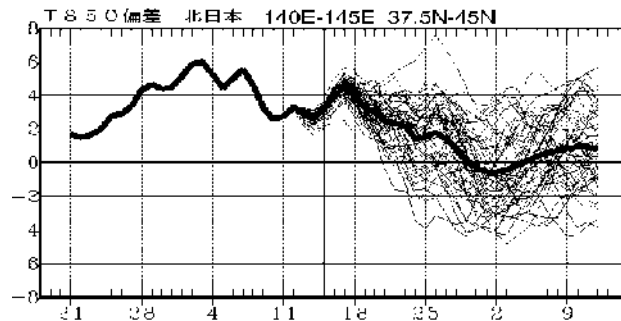
# 全般1か月予報のポイント

- 全国的に暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。北日本と沖縄・奄美では期間のはじめ、東・西日本では期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、東日本と西日本太平洋側では、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。東・西日本太平洋側では、向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。
- 沖縄・奄美では、期間の前半を中心に高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は多いでしょう。

# 各週における天候のポイント(気温)

	1週目(4/18~4/24)	2週目(4/25~5/1)	3~4週目(5/2~5/15)
想定される天候(気温)	全国的に高温で、かなり高くなる見込み	北日本は高温傾向、東・西日本と沖縄・奄美は高温で、東・西日本ではかなり高くなる見込み	東・西日本では高温、北日本と沖縄・奄美では高温傾向
根拠	偏西風が北偏して流れるため、全国的に暖かい空気に覆われる(P12,P13参照)。	暖かい空気に覆われた状態が、東・西日本を中心に持続する(P12,P13参照)。	偏西風の位置は平年に近づくが、東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすい傾向が弱まりながらも持続する(P12,P13参照)。

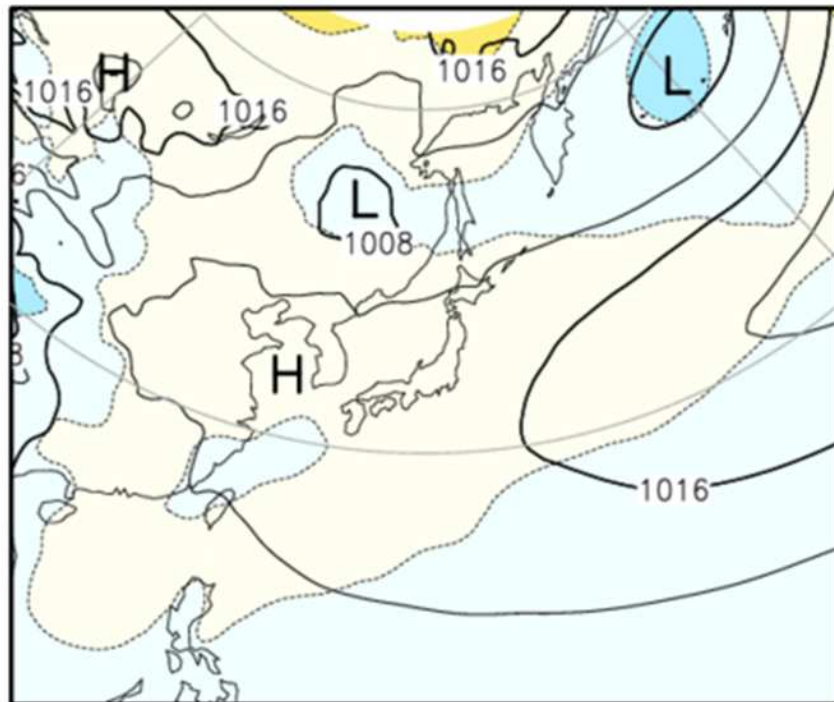
## 850hPa気温偏差時系列



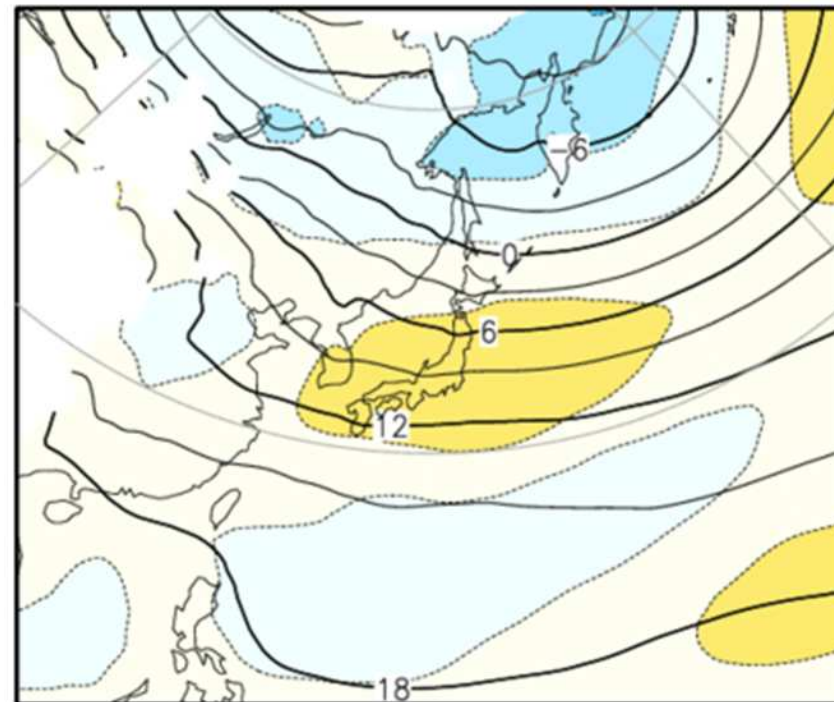
# 各週における天候のポイント(天気)

	1週目(4/18~4/24)	2週目(4/25~5/1)	3~4週目(5/2~5/15)
想定される天候(天気)	<p>北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わります。</p> <p>北日本太平洋側と東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。</p>	<p>北日本日本海側では、天気は数日の周期で変わります。</p> <p>北日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。</p> <p>沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。</p>	<p>北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わります。</p> <p>北日本太平洋側と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。</p> <p>東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。</p>
根拠	<p>沖縄・奄美では高気圧に覆われやすい(P10-P13参照)。</p>	<p>東日本では前線や湿った空気の影響を受けやすい。沖縄・奄美では高気圧に覆われやすい(P10-P13参照)。</p>	<p>東・西日本太平洋側では前線や湿った空気の影響を受けやすい(P10-P13参照)。</p>

## 海面気圧(1か月)



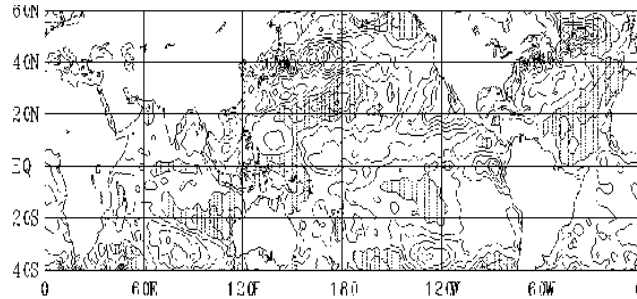
## 上空約1500mの気温(1か月)



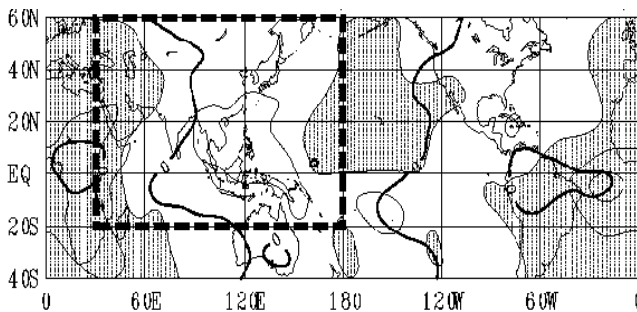
1か月平均の海面気圧(左図)では、日本の東に高気圧、東シナ海から本州付近にかけては弱い気圧の谷が予測されています。東日本と西日本太平洋側を中心に高気圧の縁を回る湿った空気や前線の影響を受けやすいでしょう。沖縄・奄美では期間の前半を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすいでしょう。

# 予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

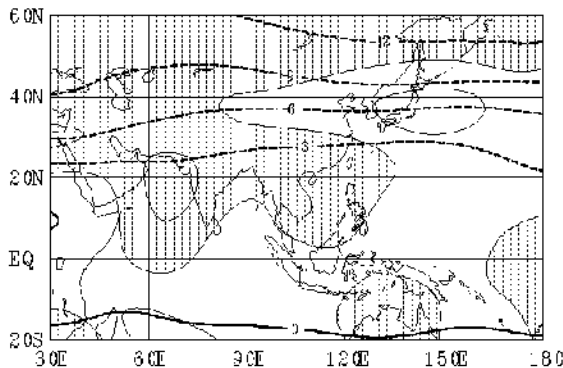
## SST偏差



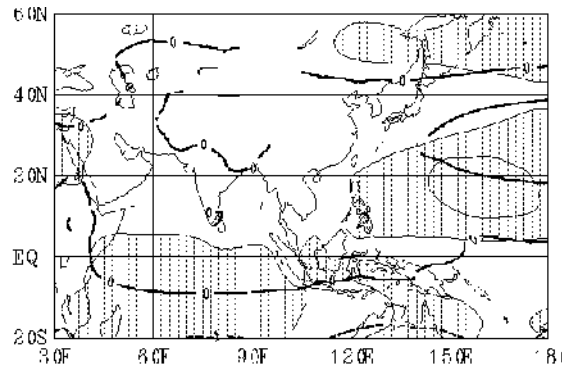
## 200hPa速度ポテンシャル



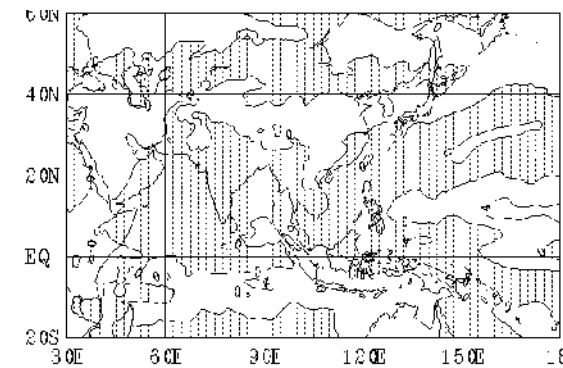
## 200hPa流線関数



## 850hPa流線関数



## 降水量偏差



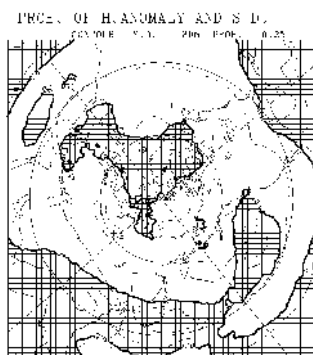
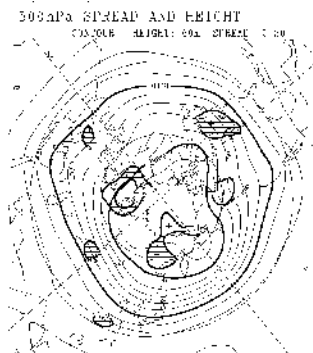
SST偏差は、フィリピンの東から日付変更線付近にかけて正偏差。

200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差と熱帯季節内変動等に対応して、日付変更線付近の北太平洋亜熱帯域で上層発散偏差、インドネシアからフィリピン付近で上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、南シナ海付近で低気圧性循環偏差。その影響もあり、日本付近では高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、フィリピンの東から日付変更線付近にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、フィリピンの東から日付変更線付近にかけて多雨偏差。日本付近は沖縄・奄美で少雨偏差、東日本付近で多雨偏差。

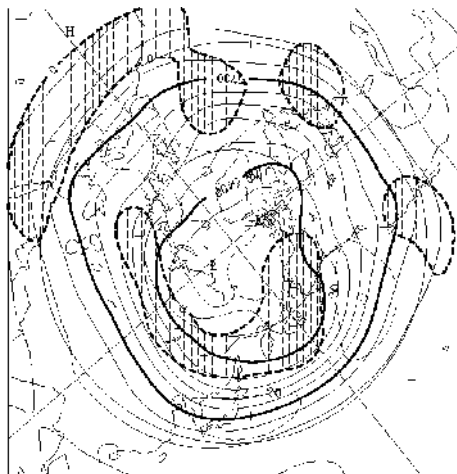


500hPa高度は、北緯60度付近の西シベリアからカムチャツカ半島の東にかけて負偏差、その南の北緯40度付近では正偏差。日本付近は強い正偏差で暖かい空気に覆われやすい。東・西日本では正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。

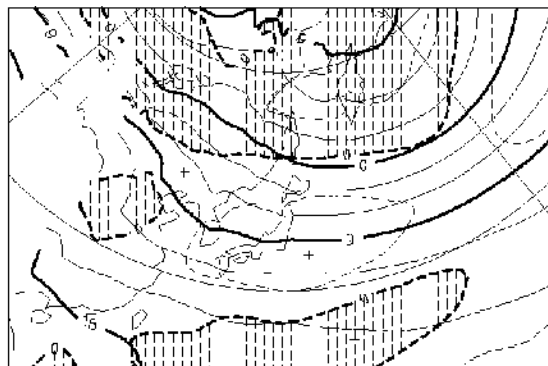
850hPa気温は、500hPa高度に対応して日本付近は東・西日本を中心に平年より高い領域に覆われる。

海面気圧は、日本の東に高気圧があり、東シナ海から本州付近にかけては弱い気圧の谷がある。東日本と西日本太平洋側を中心に高気圧の縁を回る湿った空気や前線の影響を受けやすい。沖縄・奄美では期間の前半を中心に高気圧に覆われやすい。

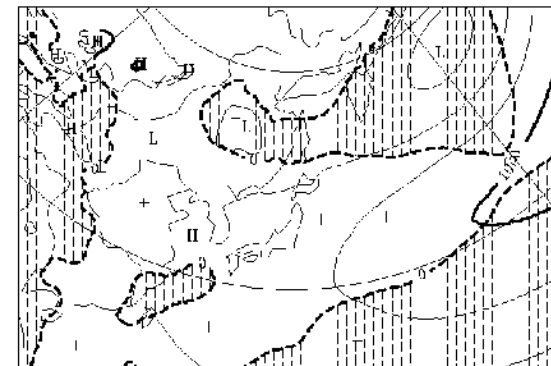
500hPa高度



850hPa気温

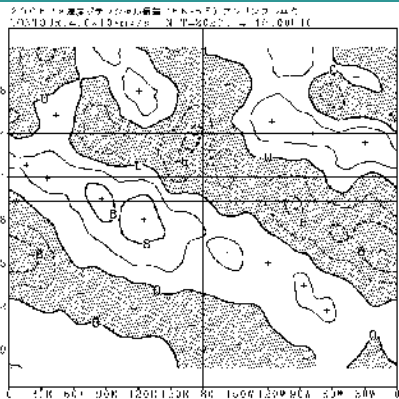


海面気圧



# 予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

## 200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、1週目はインドネシアからフィリピン付近で収束偏差。2週目以降は熱帯季節内変動に伴う対流活発域がインド洋から太平洋を東進し、2週目にインド洋西部、3～4週目には太平洋中部で発散偏差。

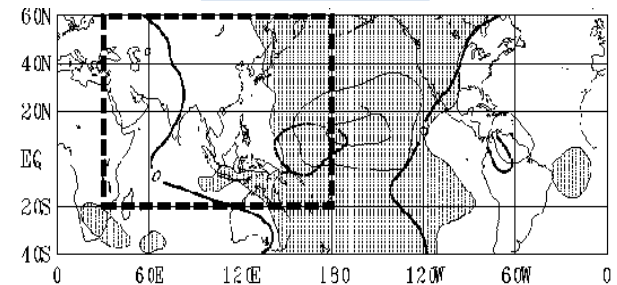
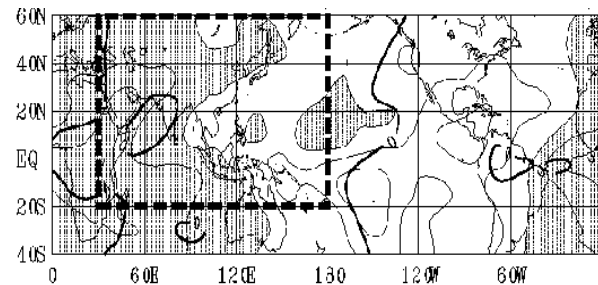
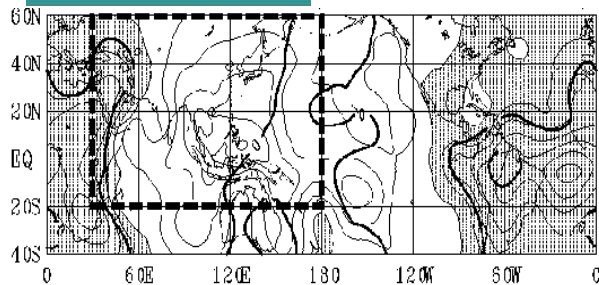
降水量は、予測期間を通して、太平洋熱帯域の日付変更線付近で多雨偏差が持続。フィリピンの東では、1週目は少雨偏差だが、2週目以降は多雨偏差となる。日本付近は、2週目は本州付近、3～4週目は東・西日本太平洋側で多雨偏差。沖縄・奄美では1・2週目は少雨偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル

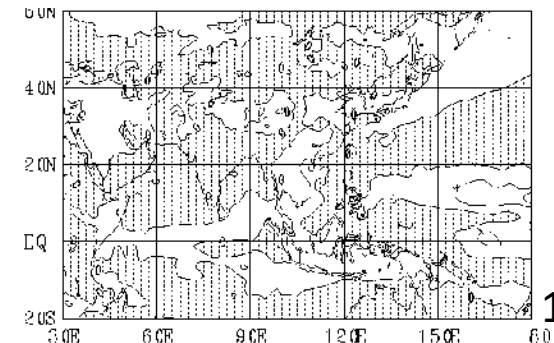
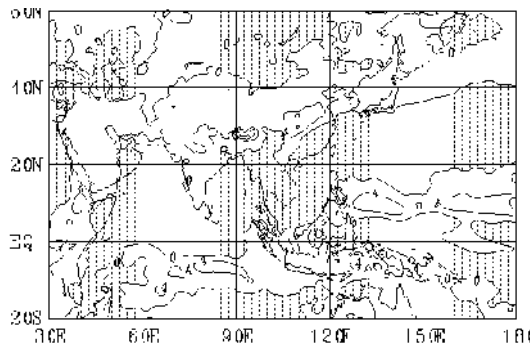
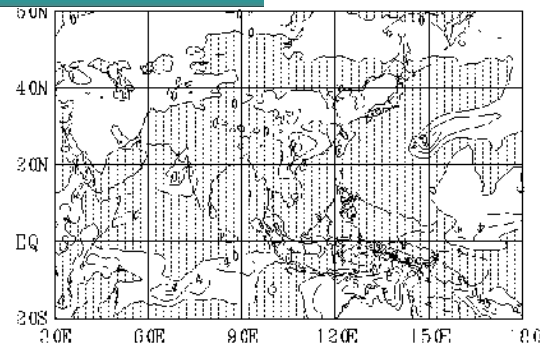
1週目

2週目

3～4週目



## 降水量偏差

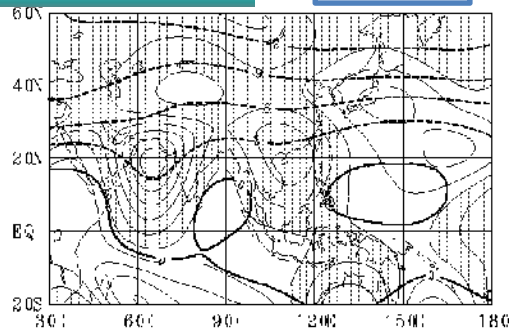


200hPa流線関数は、1週目は寒帯前線ジェット気流沿いと亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。その傾向は2週目以降も弱まりながら続くが、日本付近の高気圧性循環偏差は大陸まで広がる。

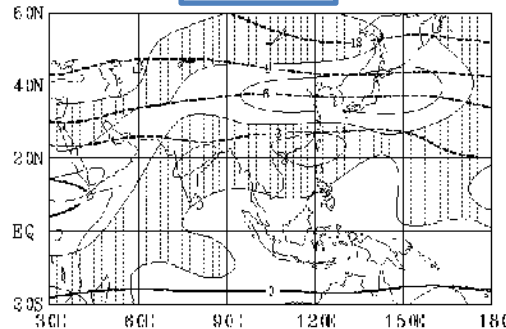
850hPa流線関数は、1週目は日本の南で低気圧性循環偏差で、沖縄・奄美には湿った空気が流れ込みにくい。2週目には日本の南から沖縄・奄美にかけて高気圧性循環偏差が強まる。3~4週目はフィリピンの東で低気圧性循環偏差となり、日本の南にあった高気圧性循環偏差は弱まる。

## 200hPa流線関数

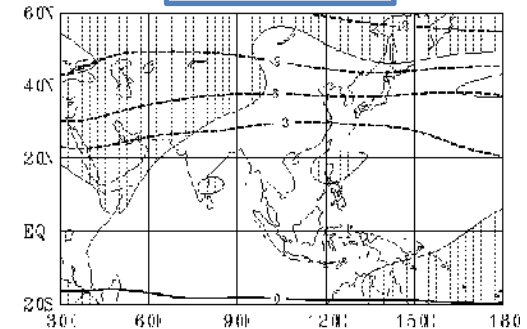
1週目



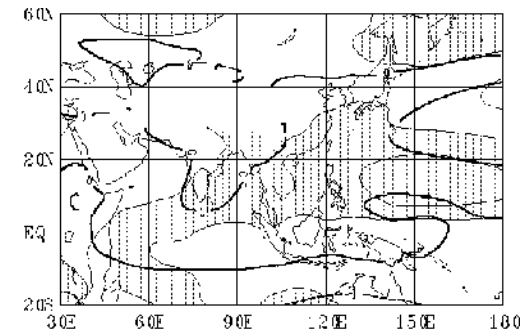
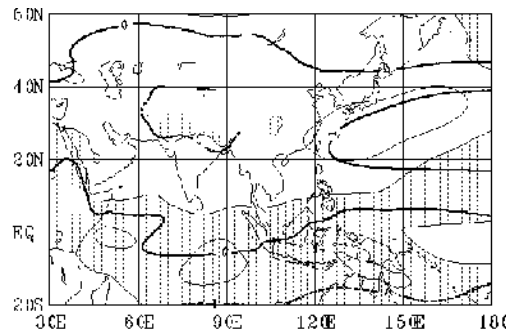
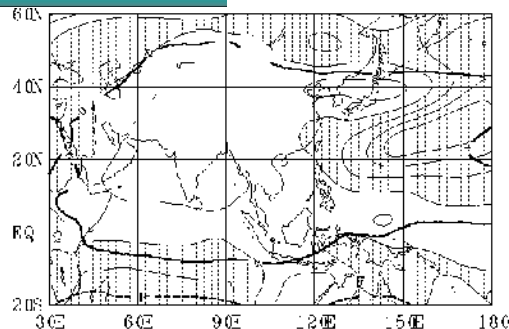
2週目



3~4週目



## 850hPa流線関数



# 予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

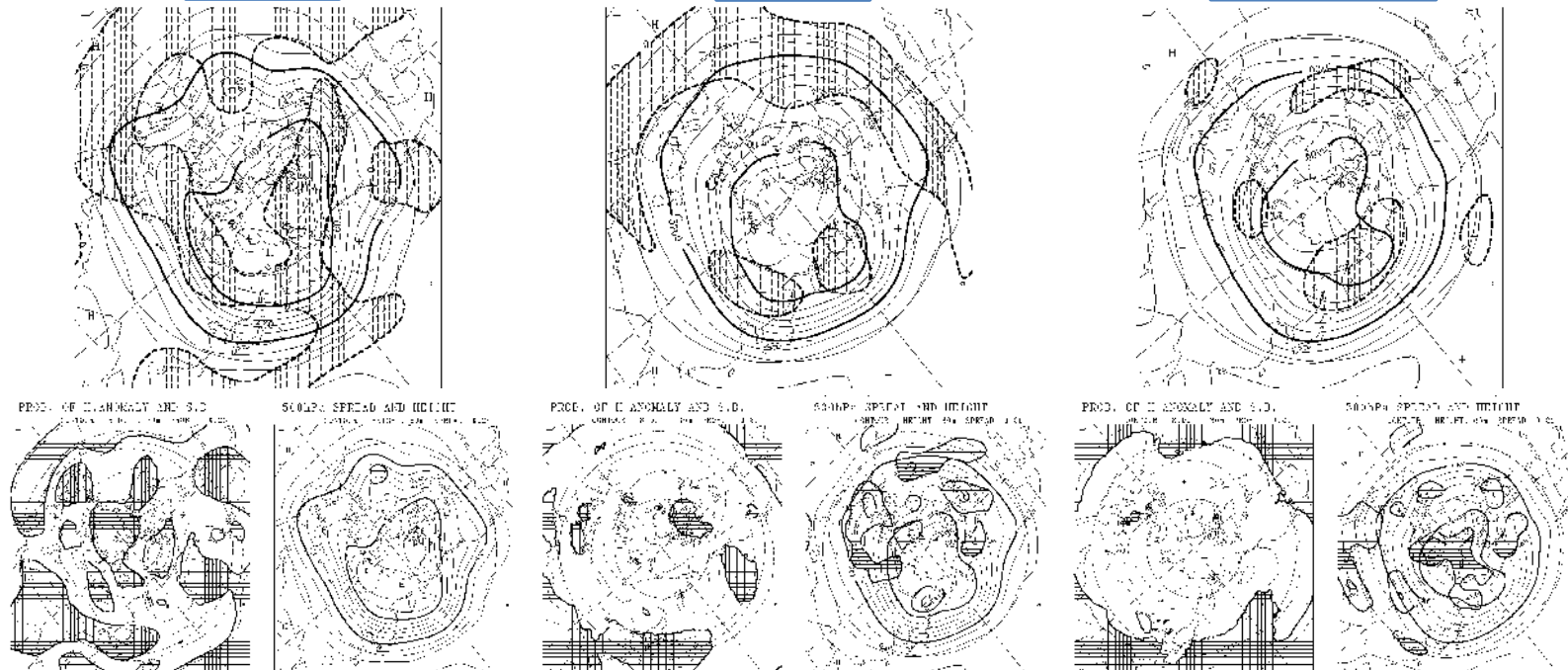
500hPa高度は、1週目は中国東北区付近にトラフがあり、それを含む寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播に加えて亜熱帯ジェット気流沿いの波束伝播もあり、日本付近で正偏差。2週目はトラフが東進し、日本付近はやや西谷傾向。3～4週目はトラフが日本の北からカムチャツカ半島付近まで東進する。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



850hPa気温は、予測期間を通して正偏差域に覆われ、特に1・2週目は東・西日本を中心に強い正偏差。

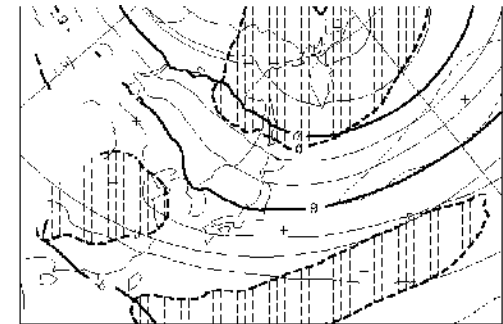
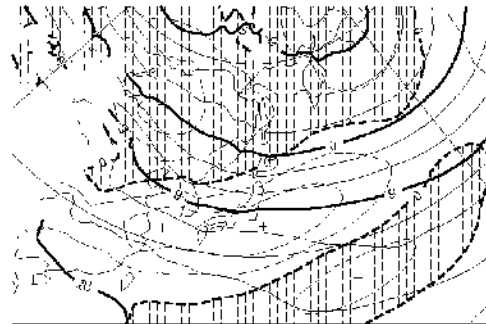
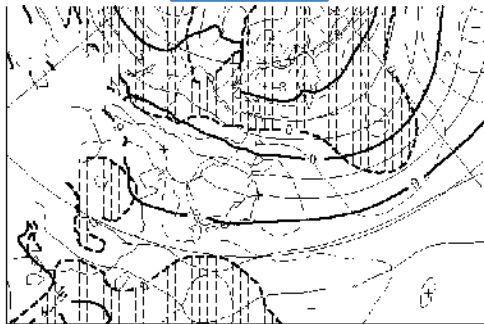
海面気圧は、1週目は気圧の傾きが緩い沖縄・奄美で高気圧に覆われやすい。2週目は日本の東から沖縄・奄美付近に高気圧が張り出す一方、東シナ海から東日本日本海側にかけて弱い気圧の谷があり、本州付近を中心に湿った空気が流れ込みやすい。3～4週目は日本の東の高気圧が弱まり、気圧の谷は南下し、湿った空気の流れ込みは東・西日本太平洋側が中心となる。

1週目

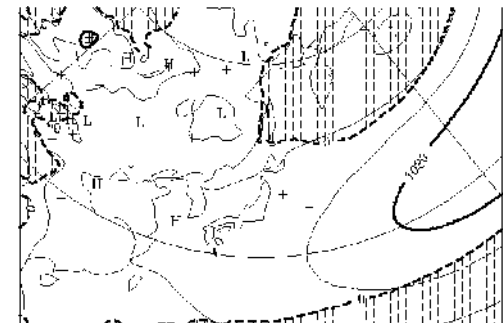
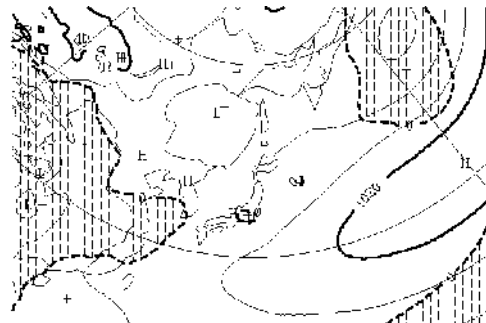
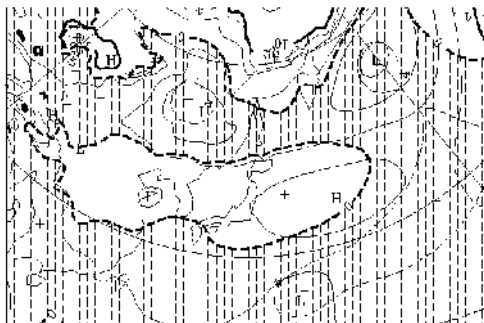
2週目

3～4週目

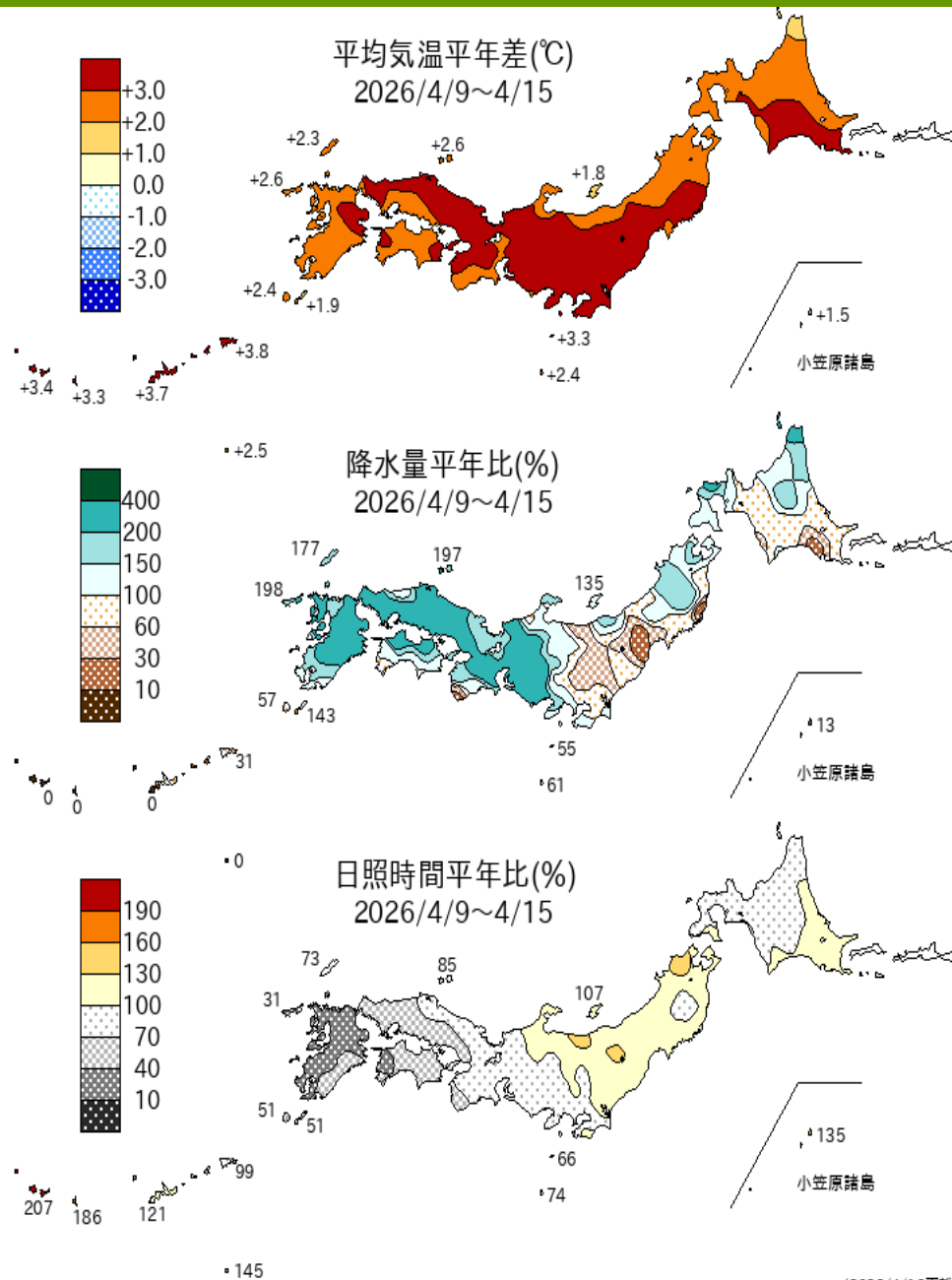
850hPa気温



海面気圧



# (参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(4月9日~4月15日)は、全国的に天気は数日の周期で変わり、北・東日本を中心に高気圧に覆われて晴れた日もありますが、西日本を中心に低気圧や前線の影響で曇りや雨の日もありました。

このため、降水量は平年を上回った所が多くなりました。一方、高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美では降水量が平年を大きく下回り、北・東日本太平洋側でも平年を下回った所がありました。日照時間は西日本で平年を下回り、そのほかの地方では平年を上回った所が多くなりました。

暖かい空気に覆われやすかったため、気温は全国的に平年を大きく上回り、真夏日となった所がありました。